

# ビジネスサマリー

## 計測事業

### ネットワーク社会の進化・発展

- モバイル市場：5G、LTE
- ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備



## PQA事業

### 食の安全・安心

- X線検査機
- 金属検出機
- 重量選別機



## その他事業

- IPネットワーク機器
- 光デバイス



2019年度売上高実績（連結）：1,070億円

### ■ 事業別売上比率

計測事業 70%

モバイル 56%

ネットワーク・インフラ 25%

エレクトロニクス 19%

PQA事業 21%

その他事業 9%

### ■ 計測事業 地域別売上比率

日本  
22%

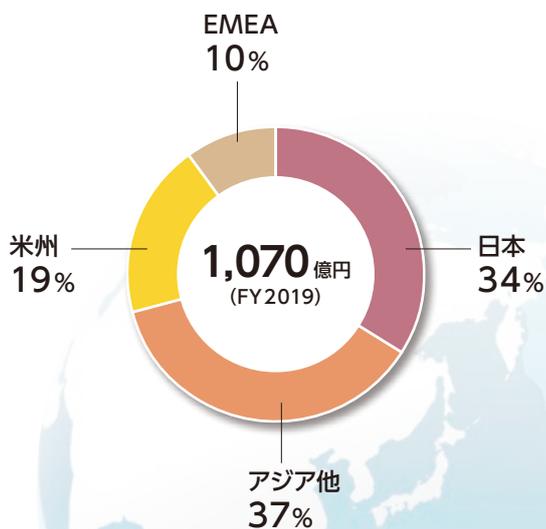
アジア他  
44%

米州  
22%

EMEA  
12%

PQA：Products Quality Assurance EMEA：欧州・中近東・アフリカ

### 地域別売上比率（連結）



### 主なお客さま

#### 計測事業

##### モバイル市場

- スマートフォン/タブレット端末メーカー
- EMS (電子機器生産受託企業)
- チップセットメーカー
- 通信事業者
- 自動車および車載関連メーカー

##### ネットワーク・インフラ市場

- 通信事業者
- 通信建設業者
- 通信装置メーカー
- IT系サービスプロバイダ

##### エレクトロニクス市場

- 電子デバイス/コンポーネントメーカー
- 通信装置メーカー
- スマートフォン/タブレット端末メーカー
- 電子機器メーカー
- 自動車および車載関連メーカー

#### PQA事業

##### 食品・医薬品の品質保証

- 食品メーカー (農産物、畜肉、加工食品)
- 医薬品/化粧品メーカー (錠剤、カプセル、液剤、貼付薬)

#### その他事業

##### 情報通信事業 (IPネットワーク機器)

- 官公庁・自治体
- 金融機関
- 映像配信事業者

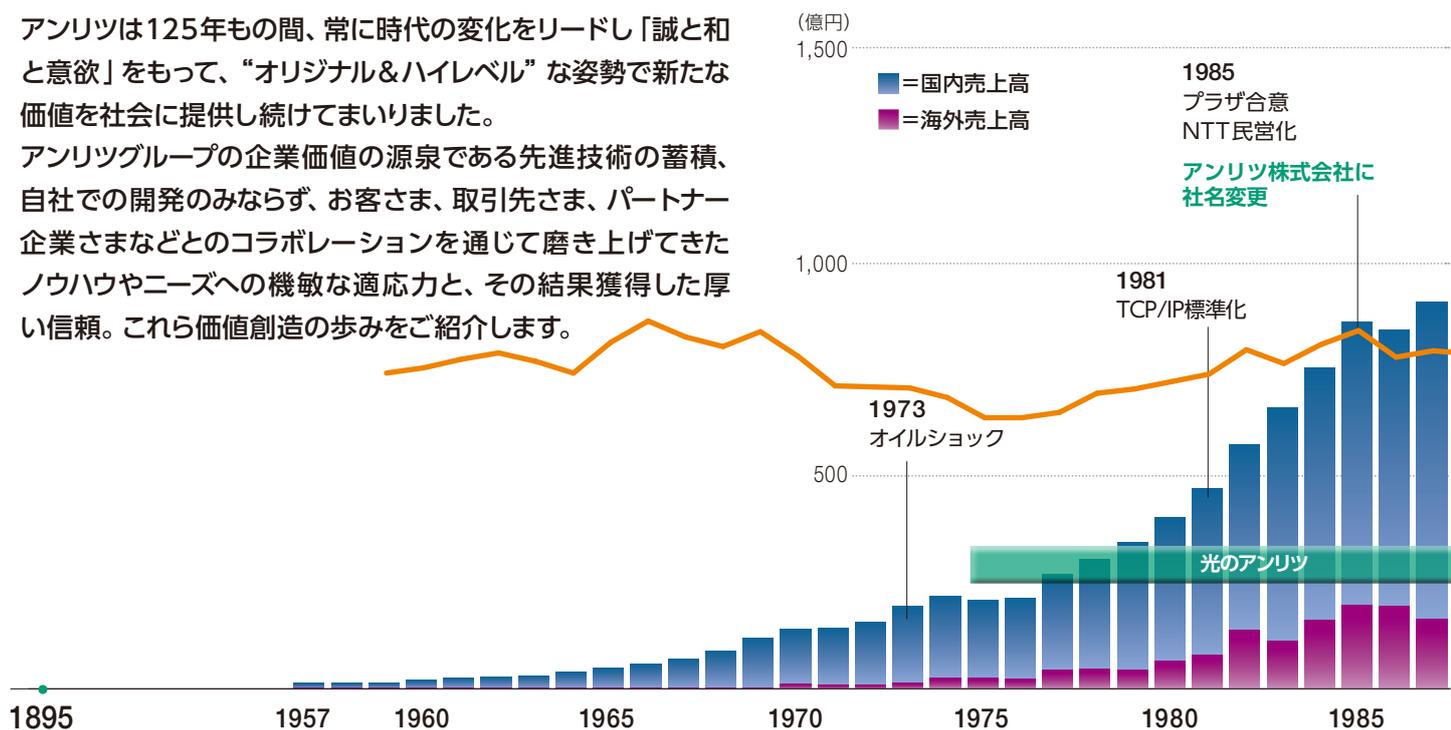
##### デバイス事業 (光デバイス)

- 電気機器メーカー
- 通信装置メーカー

# Anritsu Value History

アンリツは125年もの間、常に時代の変化をリードし「誠と和と意欲」をもって、“オリジナル&ハイレベル”な姿勢で新たな価値を社会に提供し続けてまいりました。

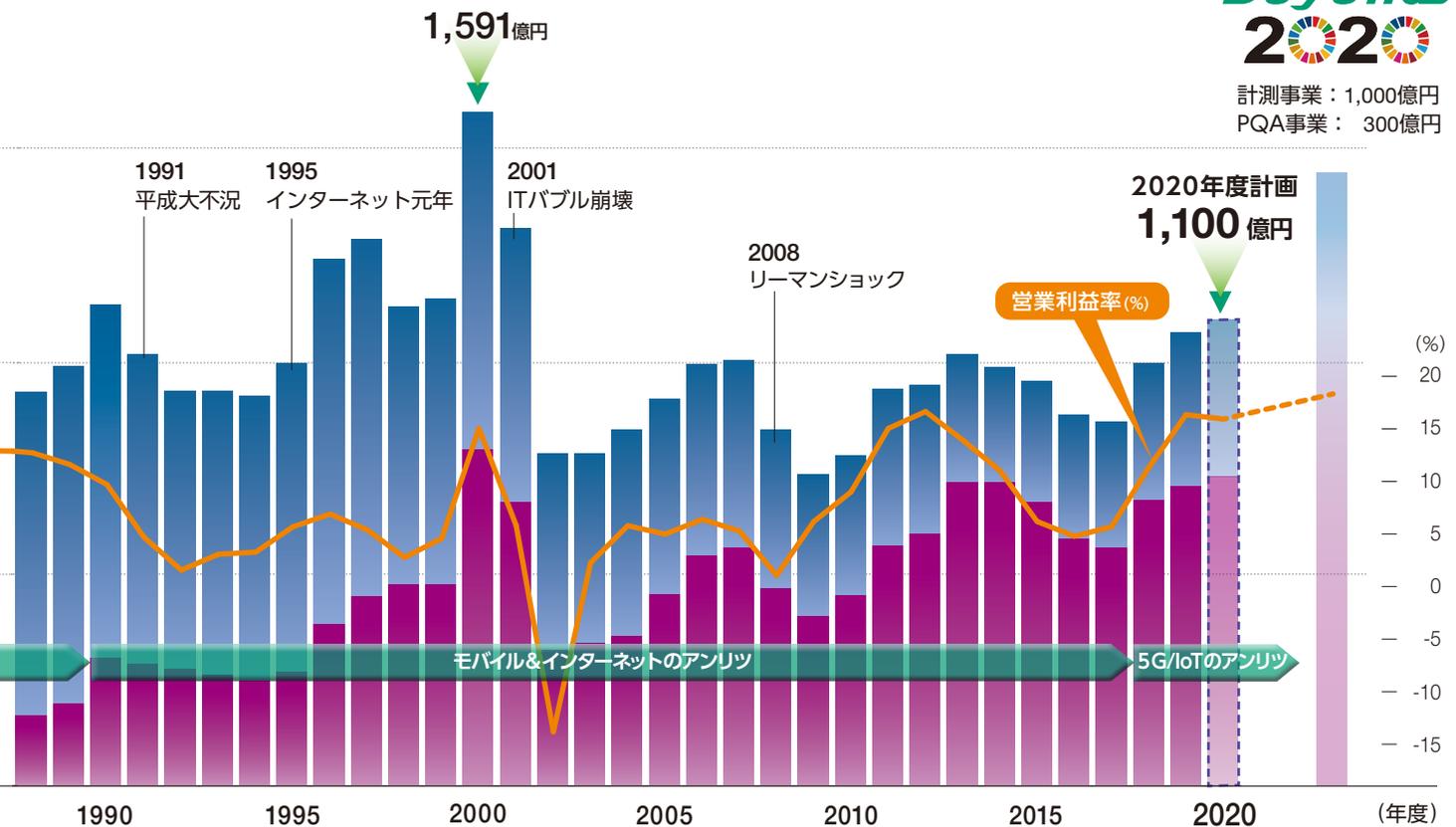
アンリツグループの企業価値の源泉である先進技術の蓄積、自社での開発のみならず、お客さま、取引先さま、パートナー企業さまなどとのコラボレーションを通じて磨き上げてきたノウハウやニーズへの機敏な適応力と、その結果獲得した厚い信頼。これら価値創造の歩みをご紹介します。



誠と和と意欲の変革の歴史	黎明期 1895-1930	有線・無線の統合期 1931-1949	新生安立電気による再興期 1950-1962	多角化による事業拡大期 1963-1974
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の情報通信技術の黎明期を担う</li> <li>関東大震災後の不景気、世界大恐慌、競争激化で経営危機に陥る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共立電機(石杉社)と安中電機製作所の合併で安立電気設立</li> <li>日中戦争勃発により戦争の時代へ(軍需景気)</li> <li>終戦とともに民需への転換で企業再建をはかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業再建法に基づく第2会社方式で再スタート</li> <li>日本復興に向けた通信インフラの整備拡充を支える</li> <li>東京本社オフィスの建設</li> <li>厚木事業所(現在の本社地)の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6事業部体制で事業多角化を推進</li> <li>日本の高度成長を支える通信インフラ拡大を支える</li> <li>公衆電話機の輸出事業スタート</li> </ul>

オリジナル&ハイレベルへの挑戦	世界初の無線電話機の実用化を担う (TYK式無線電話機)	日本初のテレビジョン放送機の開発、製造	公衆電話機の量産	デジタル伝送向けの測定器開発
	日本の有線通信の先駆者となる (自動電話機の製造)	磁気録音機(交流バイアス方式)開発	計測事業の先駆けとなるマイクロ波回線用測定器開発	PQA事業の先駆けとなる重量選別機開発





### 光のアンリツの時代

1975-1989

- AT&T社にマイクロ波回線用測定装置の大量納入でアメリカに事業基盤を構築
- 光通信網の拡充投資で国内外の光計測事業が拡大
- NTT民営化による通信市場の開放で計測市場が拡大
- 公衆電話機の海外事業が拡大

### マルチナショナル企業としての基盤づくり

1990-2000

- 創業100周年：21世紀経営ビジョン「グローバルの顧客に、グローバルの技術で、グローバルの企業に」
- ウィルトロン社買収による海外における開発・製造・販売拠点の統合と拡大
- 事業の選択と集中：ノンコア事業の撤退、譲渡を進める

### 21世紀グローバルブランドへの道

2001-

- 北米ITバブルで史上最高益と大幅赤字転落
- 経営構造改革(本社機構を厚木市に集中)
- モバイル計測分野のグローバル・リーディングカンパニーへ成長
- ネットテスト社の買収でOSS市場参入
- アジマス社の買収で高度なフェージング技術を獲得



光通信向け測定器  
(世界初の光パルス試験器 OTDR) 開発



高速大容量光デジタル通信市場向けの SONET/SDH/PDH/ATMアナライザ開発



光増幅器用励起光源(光デバイス)の開発、外販



超高速半導体デバイス (MMIC) 開発

デジタル移動無線用測定器をシリーズ化



世界初のW-CDMA (3G)およびLTEコンフォーマンステストシステム開発



X線検査機



世界初の3GPP規格準拠の5Gチップセット・端末検証用テスト開発



5GのプロトコルコンフォーマンステストおよびRFコンフォーマンステストで業界初のGCF認証を取得

### 1990年

ウィルトロン社買収  
(米国カリフォルニア州)



- 海外における販売、開発、製造の拠点を統合グローバルにビジネスを展開する強固な基盤を構築
- マイクロ波、ミリ波帯の製品ミックスを強化
- ハンドヘルド製品ラインナップの獲得
- 顧客基盤の拡大

### 2005年

ネットテスト社買収  
(デンマーク)



- サービスアシュアランス事業を獲得
- ネットワークの品質保証まで含めたトータルソリューションの提供を実現

### 2016年

アジマス社買収  
(米国マサチューセッツ州)



- 5Gに不可欠なフェージング技術を獲得
- OTAなどのキーソリューションを構成可能に

# アンリツ価値創造モデル

アンリツの企業価値の源泉は、アンリツらしさの「信頼性、適応力、先進性」の根源でもある、有形、無形の各資本です。アンリツは、持てる資本を最大限に活用して、社会課題の解決に貢献する企業活動を実践してまいります。

## 計測事業

5G/IoTの進化で社会イノベーションを牽引する

モバイルブロードバンドサービスの進化で快適なコミュニケーションを実現する

地球規模で強靱なネットワークインフラを実現して安全・安心、快適なグローバル社会を実現する

## 知的資本

### 120年の知の集積、イノベーション力

- ・無線・有線通信技術の蓄積
- ・ネットワーク品質保証技術
- ・超高速・光デバイスの開発・製造
- ・秤応用・異物検出技術
- ・研究開発投資：開発ROI 4.0以上

## 人的資本

### グローバルな組織と人材

- ・組織力を高める学習する組織
- ・最先端技術をリードする人材
- ・顧客密着のサポート要員と体制
- ・連結従業員数：3,881人  
(うち海外人員：1,609人)

## 計測事業

5G/IoT社会のリーディングカンパニーになる

- モバイル市場
- ・5G/IoTシステム開発
  - ・モバイル機器製造

- ネットワークインフラ市場
- ・通信ネットワークの構築
  - ・データセンターの高速大容量化

- エレクトロニクス市場
- ・電子デバイスの開発製造
  - ・公共無線網の構築

## 計測事業

5G/IoTネットワークを

### スマートデバイス



高速・低遅延実現

## アンリツへの期待 (社会からの要請)

## インプット

## 事業活動

## PQA事業

食材や医薬品に対する安全・安心の要求に応える品質保証を実現する

食物資源の適切な利用で生態系への影響を減少させる

## 社会・関係資本

### リーディングカンパニーとのパートナーシップ

- ・お客さまとの強固な信頼関係
- ・グローバルな取引先・顧客リスト

## 財務資本

### 市場環境の変化に備えた財務安定性

- ・資本コストを意識した経営の実践
- ・強固なキャッシュ・フロー創出力
- ・高い信用力による資金調達
- ・フリー・キャッシュ・フロー：116.3億円  
(2018年度：GLP2020初年度)

## 製造資本

### オリジナル&ハイレベルなものづくり

- ・グローバルなSCM
- ・グローバルな開発体制
- ・グローバルな製造拠点ネットワーク
- ・BCP(事業継続計画)に基づくファシリティとSCM
- ・SCM拠点：13拠点  
(うち海外：7拠点)

## 自然資本

### バリューチェーン全体で展開する環境経営

- ・環境マネジメントシステムの徹底
- ・環境配慮型製品の開発プロセス
- ・排水処理システム
- ・化学物質管理システム
- ・自家発電比率：0.8%(2018年度実績)

## PQA事業

ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナーになる

- 食品・医薬品市場
- ・食品加工・生産システム開発
  - ・食材(重量・異物)選別システム開発
  - ・医薬品製造システム開発

## PQA事業

食品、医薬品の品質保証ソリューション



質量検査

## ESG

環境配慮型製品の開発と普及で低炭素社会の実現に貢献する

個の成長を実感できる働きがいのある職場環境を提供する

透明・公正で誠実な企業活動を行う

## ESG

地球環境保護の推進

グローバル経済社会との調和

ガバナンスの強化と充実

## ESG

- ・再生可能エネルギー
- ・CO<sub>2</sub>排出量(工)
- ・高品質で環境・環境負荷を低

- ・人権と多様性の
- ・人権に配慮した

- ・コーポレート
- ・リスクマネジ

## エンゲージメント

企業市民としてサステナビリティ社会の実現に貢献する

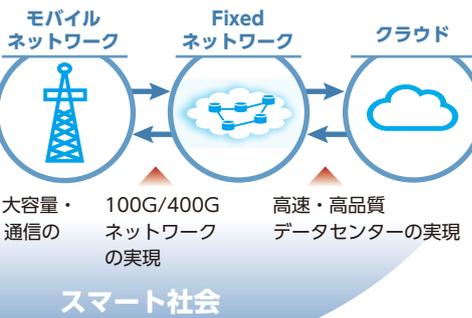
## エンゲージメント

コミュニケーションの推進による共有価値の創造

ステークホル

P26~29

支え、社会イノベーションを牽引する計測ソリューション



## 知的資本

- ・国内外の技術標準/規格団体への参加と貢献：11団体

## 人的資本

- ・女性役員比率：8.7%
- ・外国人役員比率：4.3%
- ・女性の幹部職登用率：日本1.8%  
全社10.4%

## 計測事業

P29



9 産業と技術革新の基盤をつくらう

安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



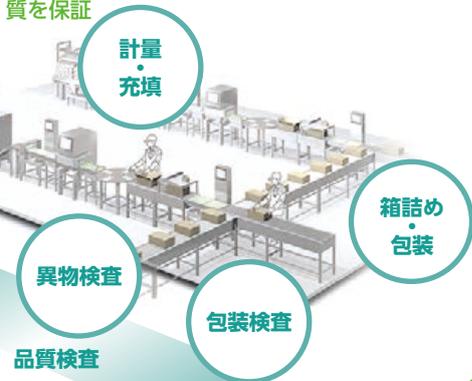
11 組み立てられるまちづくりを

安全・安心であらゆるものがつながる強靱なネットワークインフラを整備し、持続可能な社会の建設に貢献する

## アウトプット

P30~33

質を保証



## 社会・関係資本

- ・機関投資家・アナリストとのミーティング  
国内投資家：249回  
海外投資家：244回

## 財務資本

- ・フリー・キャッシュ・フロー：110.35億円

## 製造資本

- ・生産実績  
計測：781.7億円 (前年比112.2%)  
PQA：229.5億円 (前年比101.5%)  
その他：92億円 (前年比106.8%)

## 自然資本

- ・[Anritsu Climate Change Action PGRE 30]を策定  
再生可能エネルギー自家発電比率を2030年ごろまでに30%程度まで高める

## 提供する社会価値

(安全・安心で快適な社会構築への貢献)

## PQA事業

P33



9 産業と技術革新の基盤をつくらう

安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



12 つくらし責任 つかう責任

食品や医薬品の品質保証の高度化を通じて、誰もが安全で安心して暮らせる社会、食品ロスの少ない持続可能な社会の実現に貢献する

P34~43

ギ一自家発電比率向上  
エネルギー消費量/水使用量の削減  
に配慮した製品の開発/製造  
減するSCM

尊重 ・ 人財育成 ・ 労働安全衛生  
SCM(サプライチェーンマネジメント)

ガバナンス ・ コンプライアンスの定着  
メントの推進

## エンゲージメント

ダーへの情報提供とコミュニケーション

## ESG



12 持続可能な消費と生産

持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する



8 多様な人財

多様な人財とともに、個々人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する



16 透明な意思決定とリスク管理

透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定とリスク管理で誠実な企業活動を行う

## エンゲージメント



17 ステークホルダーとの協働

すべてのステークホルダーとともに協働して共有価値の創造に貢献する

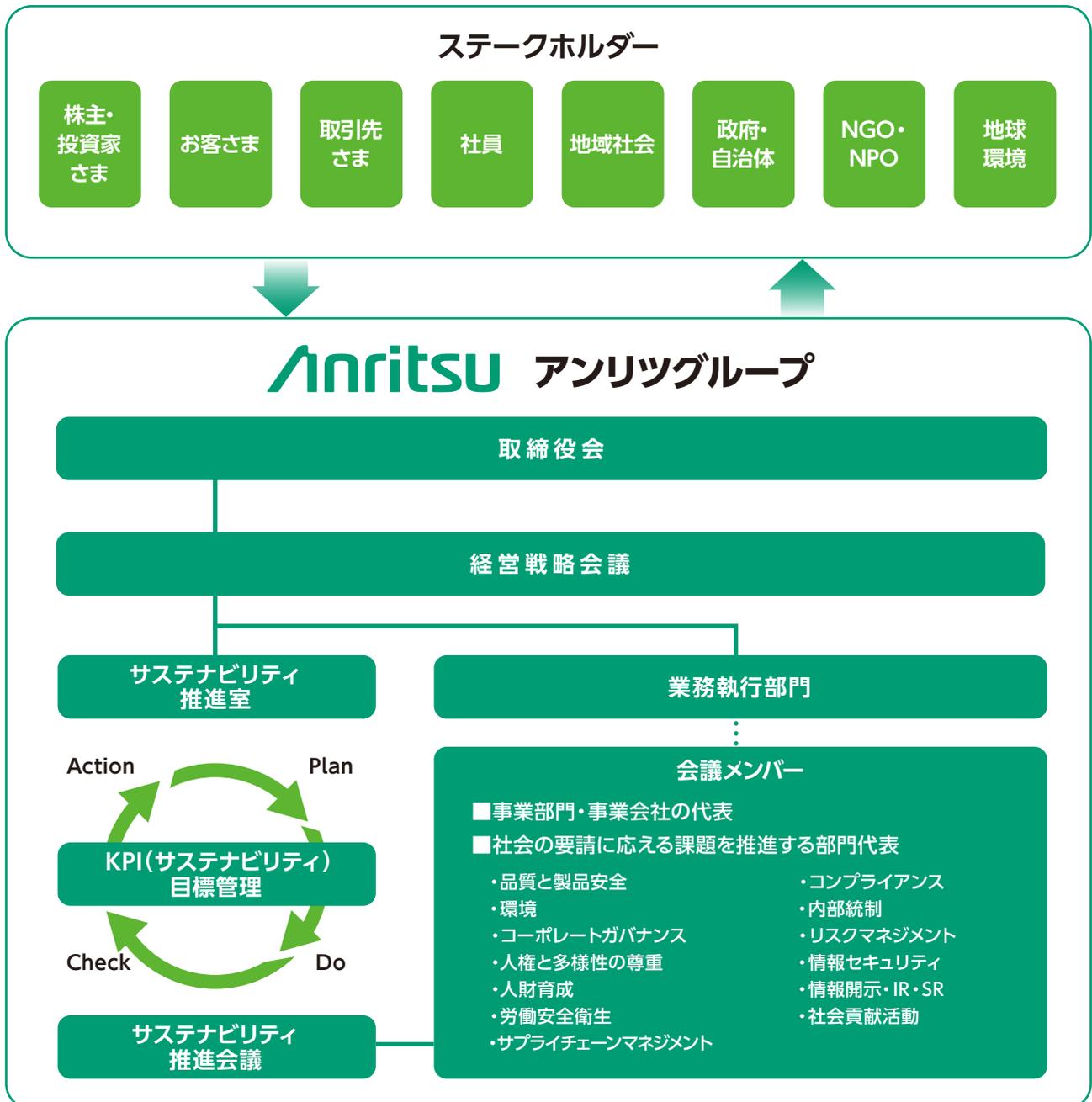
# サステナビリティ マネジメント

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針および2018年4月に制定したサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ活動を積極的に展開しています。

同時に立ち上げたサステナビリティ推進室は、事業部門、事業会社、社会・環境・ガバナンス領域の主幹部門のメンバーで構成された「サステナビリティ推進会議」とともに、アンリツグループのサステナビリティ活動を推進しています。

サステナビリティ推進活動は、取締役会および経営戦略会議の企業価値向上方針に基づいた中期経営計画GLP 2020目標に対するPDCA活動として展開しています。また、事業を通じて解決する社会課題と合わせて設定した社会の要請に応える課題(ESG)は、客観性と網羅性を担保するために、ステークホルダーごとの社会的な要請項目をもとに、社内関係部門と協働してレビューしたうえで、重要項目として抽出し、優先順位付けを行いました。

## サステナビリティ推進体制



**安全・安心で快適な社会**

 自動運転	 遠隔医療	 遠隔制御	 生育支援	 VR/AR	 食品ロス低減 品質保証
---	---	---	--	--	---

**お客さま**

 モバイル市場	 ネットワーク インフラ市場	 エレクトロニクス 市場	 食品加工市場	 医薬品市場
---	---	---	--	--

**事業を通じて解決する社会課題**

アンリツグループ全体	計測事業	PQA事業
<p>安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する</p> <p><b>9</b> 産業と社会課題の正数をつくらう</p> 	<p>安全・安心であらゆるものがつながる強靱なネットワークインフラを整備し、持続可能な社会の建設に貢献する</p> <p><b>11</b> 社会課題を解決する</p> 	<p>食品や医薬品の品質保証の高度化を通じて、誰もが安全で安心して暮らせる社会、食品ロスの少ない持続可能な社会の実現に貢献する</p> <p><b>12</b> つくる責任 つかう責任</p> 

**社会の要請に応える課題 (ESG)**

<p><b>地球環境保護の推進</b></p> <p>持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー自家発電比率向上</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量(エネルギー消費量)/水使用量の削減</li> <li>高品質で環境に配慮した製品の開発/製造</li> <li>環境負荷を低減するSCM</li> </ul>	<p><b>12</b> つくる責任 つかう責任</p> <p><b>7</b> エネルギー転換</p> <p><b>13</b> 気候変動に具体的な対策を</p>
<p><b>グローバル経済社会との調和</b></p> <p>多様な人財とともに、個人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権と多様性の尊重</li> <li>人財育成</li> <li>労働安全衛生</li> <li>人権に配慮したSCM</li> </ul>	<p><b>8</b> 働きがいも経済成長も</p> <p><b>3</b> すべての人に健康と福祉を</p> <p><b>5</b> ジェンダー平等を推進しよう</p>
<p><b>ガバナンスの強化と充実</b></p> <p>透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定とリスク管理で誠実な企業活動を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンス</li> <li>コンプライアンスの定着</li> <li>リスクマネジメントの推進</li> </ul>	<p><b>16</b> 平和と公正をすべての人に</p>
<p><b>コミュニケーションの推進による共有価値の創造</b></p> <p>すべてのステークホルダーとともに協働して共有価値創造に貢献する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション</li> </ul>	<p><b>17</b> パートナリシップで目標を達成しよう</p>